武蔵野ヒストリー

武蔵野にまつわる歴史を楽しみながら学ぶ

平成元年の武蔵野市

平成31（2019）年で幕を閉じる平成。日本の元号としては昭和、明治、応永に次いで4番目の長さとなります。さて、30年前の武蔵野市。時代はまだ20世紀、消費税3％が導入されたばかり…。平成元（1989）年の武蔵野市にタイムスリップしてみましょう。

市民文化会館で開村100年記念式典が行われた（4月9日）

昭和64（1989）年1月7日に昭和天皇が崩御し、その翌日から平成と改元されました。新しい元号に変わったその年、武蔵野市が開村100年を迎えたのはなんという偶然でしょうか。4～12月に各所で開村100年を祝う催しが行われました。8月20日には、昭和33（1958）年まで井の頭池畔で開かれていた花火大会が31年ぶりに都立武蔵野中央公園で開催され、約10万人の観衆が夜空を彩る3200発の花火を楽しみました。また、記念事業として都市のアイデンティティの創造、民俗資料館と歴史資料館の建設の検討、「武蔵野百選」の選定、国際交流協会の設立、情報公開制度の実施、武蔵野市百年史の編さんなどが進められました。

加えてこの年には、市の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点となる都立武蔵野中央公園、総合体育館の二つの施設がオープン。また施策としては高齢化社会を見据えた取り組み、障害者福祉の充実、市民のニーズに合った行政サービスの整備などを行っています。

では、トピックを引き出し振り返ってみます。

武蔵野市開村100年記念事業を実施。北口駅前の再開発が進む武蔵境駅も開設100年を迎える

吉祥寺村、西窪村、関前村、境村の4村および井口新田飛地が合併し、明治22（1889）年に武蔵野村が誕生しました。当時の人口は3089人、そして100年後、平成元年の人口は13万5000人。

約1年間にわたり記念事業を行ったことは前述の通りですが、「未来を見つめ、すべての市民が健康で安全で快適な生活ができるまちづくりをめざすメッセージとして、これらの記念事業を実施する」と当時の記録にあります。記念施設として民俗資料館と歴史資料館の建設の検討が始まり、郷土の歴史と文化を伝える「武蔵野ふるさと歴史館」が平成26（2014）年に開館しました。

武蔵境駅もまた、開設100年を迎えました。村が誕生したその年、現在のJR中央線の前身、甲武鉄道の新宿―立川間が開通し、境に停車場ができました。100年後、武蔵境駅は北口の再開発が進み、駅前通りの電線類を地中に埋設したほか、舗装も新たにリニューアル。市民の公募により、「すきっぷ通り」と愛称が決まったのもこの年です。

開村100年記念の花火大会

高齢化社会の到来、働く女性の活躍、情報化社会、世相を反映した行政の取り組み

4月、新年度がスタートし、行政にもさまざまな動きがありました。

市役所の機構改革により、武蔵野市役所で初めての女性管理職が誕生しました。社会福祉課長、そして新設した児童婦人部婦人問題担当副参事です。また全国に先駆け、在宅の高齢者に有償で福祉サービスを行ってきた武蔵野市福祉公社を財団法人として法人化。有償在宅福祉サービス団体が財団法人として認められたのは、日本で初めてのケースでし

武蔵境市政センター

建設中の総合体育館

た。高齢化社会を見据え、高齢者在宅サービスの安定供給を目指した取り組みが評価された結果です。

そして、3月の定例市議会で可決成立した「武蔵野市情報公開条例」に基づく情報公開制度が始まったのは10月。情報公開制度とは、市が保有している情報を市民の請求に応じて原則公開するというもので、市民と市政の情報の風通しを良くし、より開かれた市政の推進を目指していくことを目的としています。

市民の願いが実って実現した都立武蔵野中央公園、スポーツ活動の拠点施設である総合体育館がオープン

6月、軍需工場、戦災、米軍宿舎用地といった変遷を経て都有地となり、「原っぱの公園」として市民に親しまれてきた公園が、都立武蔵野中央公園として整備・開園。原っぱを主体として広場がそのまま残されたのは、市と市民が一体となって存続を叫び続けた結果です。公園の愛称は、市立第二小の1年生が付けた「はらっぱ・むさしの」と決まりました。

また11月には、総合体育館と室内温水プールが完成。これまで市内には学校施設を除いて本格的な体育施設が少なく、競技スポーツはもちろん、気軽にスポーツを楽しめる場を求める市民の声に応える形で実現しました。また、オープンに先駆けて、9月には施設の管理などを行う「財団法人武蔵野スポーツ振興事業団」が正式に発足しています。

学校開放、地域行政センター（仮称）の新設決定など、市民ニーズに合わせた取り組みを推進

市立小学校の校庭・体育館を市民や地域の子どもたちに開放する「団体開放」「遊び場開放」を行ってきましたが、9月には全小学校13校が開放されました。これにより、より多くの子どもたちに安全な遊び場を提供できるようになりました。

また新たな市民ニーズに応え、効率的な行政サービスの向上を図るため、6カ所の出張所を廃止。吉祥寺駅と武蔵境駅周辺の東西2カ所に、取り扱い業務を拡充した「地域行政センター（仮称）」を設置することとしました。設置時には名称を「市政センター」と決定し、現在では三鷹駅前と併せて3カ所で行政サービスを行っています。

200年後の武蔵野市へ向かって

このほか、市政方針ではこれから取り組んでいく重点事業として、「武蔵境駅周辺再開発事業」「中央図書館の改築」「福祉会館の改築」（現高齢者総合センター）などに触れています。

〝平成〟という新元号とともに、次の100年に向かってスタートを切った武蔵野市。全体を見渡してみると、開村100年にあたり、自然と調和した快適な環境を持つ都市を創造していこうという、新たな決意が感じられる節目の年であったように思われます。

年表：武蔵野市　平成元（1989）年

2月	吉祥寺西コミュニティセンター開館
3月	第二期長期計画第二次調整計画（平成元年度～6年度）策定
6月	都立武蔵野中央公園（はらっぱ・むさしの）開園
6月	議長に井口一男氏
8月	開村100年記念武蔵野まつり・花火大会開催
9月	武蔵野スポーツ振興事業団（現武蔵野生涯学習振興事業団）発足
10月	武蔵野市国際交流協会発足
11月	総合体育館・温水プール開館
12月	けやきコミュニティセンター開館

　取材・文／山口 朋恵